

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表（平成24年度地域内フィーダー系統）

平成24年5月31日
近畿運輸局

番号	協議会名 (又は主な構成員)	事業名	補助対象事業者等	事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等及び地方航空局における二次評価結果	備考
					事業実施の適切性	目標・効果達成状況	実施した事業の今後の改善点 (調査事業においては計画策定に向けた方針)	評価結果	
14	生駒市地域公共交通活性化協議会	陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業 (地域内フィーダー系統)	① 生駒交通(株) 暗峠萩原線及び暗峠線2系統	近畿日本鉄道(株)生駒線南生駒駅を經由する、暗峠～南コミュニティセンターせせらぎ間2系統の運行	A	A	地域の活性化につなげるという目的を達成するためには、持続的な運行が求められるところであるが、それには、収支状況を改善することも必要になる。(運行開始～平成24年3月末までの期間では、運行に要する経常経費に占める市の負担割合は、約66%となっている) 今後、収支状況の改善に向け、より一層の利用促進に取り組む。具体的には、行政や運行事業者だけでなく、沿線地域も交え、ダイヤ等運行情報の一層の周知を図ることや、沿線地域の利用の利便性とのバランスも勘案しながら観光目的での利用も含めて利用促進策を検討し、実施していく方針である。	生駒市地域公共交通協議会では、住民の高齢化により、これまで公共交通サービスが提供されていなかった地域において生活交通を確保する必要があるとして、市内の公共交通空白地において、コミュニティバスを運行している。これにより、市内外から運行地域への来訪が増え、人口の少ない当該地域の活性化を図り、人口減に歯止めをかけることを目的としている。 平成24年度は小型車両を用い、平日1日あたり3、5往復を運行し、地域の生活交通の確保を図ることを目標としている。 事業実施の適切性については、自己評価のとおり、適切に実施されたと評価できる。 目標・効果達成状況についても自己評価のとおり、目標を達成したと評価できる。今後も持続可能な地域公共交通を目指し、モビリティマネジメントを実施するなどして地域住民のマイバス意識を高める取り組みを進められたい。	